

特色① リスク・リターン 両面から

ESGへのアプローチは、大きく「リターンの観点」と「リスクの観点」の2つがありますが、従来はやや「リスクの観点」に偏る傾向があったと考えています。当社では、一般的な解釈から一歩踏み込んで、CSRは企業の視点、ESGは投資家の視点から企業の社会的責任を見ているものの、企業価値向上を図るという本質は同じであるとの考えをもって、「リスクの観点」は勿論ですが、より「リターンの観点」を重視していきたいと考えています。

リスクの観点

企業の持続的成長を阻害する可能性がある要因として、環境や社会などの視点からどのような要因を認識しているか。また認識している要因に対してどのような対策を講じているか。

表裏の関係

リターンの観点

社会課題の解決を自社の収益獲得機会と捉えて、「企業価値創造」や「市場創造」に結びつけているか。

■重点確認事項

- ① ESG活動が**経営の中核**に位置付けられているか。
- ② **持続的な発展を目指すための「投資」**として位置付けられており、単なる社会貢献としてのコストとして扱われていないか。
- ③ 法令遵守のレベルに留まることなく、**新たなフロンティアに挑戦**するための自主的取組みとなっているか。

特色② 時間軸の考慮

長期的な対応が求められるESGと短・中期的な業績説明に終始しがちな情報開示の間の時間軸の差を企業と投資家双方で埋めていくことが重要であると考えています。

企業活動

企業の情報開示

短期的な視点となっているため、「非財務の財務化」に関する説明が曖昧

ESG対応

(企業が存続する限り、対応が求められる)

現在

将来

特色③ 企業価値向上に向けた社内外の協働

当社では、運用部門のファンドマネジャーやアナリストと、パッシブ運用の観点から中長期視点でエンゲージメントと議決権行使を実施する責任投資グループとが協働し、包括的な視点に基づく質の高いエンゲージメントや議決権行使を実施しています。スチュワードシップ活動の内容は、取締役会や社内の経営政策委員会である「責任投資委員会」に報告されます。

また、社内連携だけではなく、官公庁や外部イニシアティブとも積極的に連携し、有識者から国内外の情報をタイムリーに入手するとともに、投資先企業を含む産業界はもとより、広く官公庁や大学研究者等、産官学全てにエンゲージメント活動のフィールドを拡大しています。

